

## 社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃・小川秀司<sup>1)</sup>

### 〈研究概要〉

#### A) 中央アフリカ、コンゴ森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至

コンゴ民主共和国(旧ザイール)ジョル地区ルオ保護区ワンバ森林のボノボの継続調査を行っている。1997年度は政変に伴う渡航自粛勧告のため現地調査はできなかったが、ビデオ映像による行動の分析を行った。

#### B) 東アフリカ、タンザニアにおける野生チンパンジーの研究

##### (1) 南西タンザニア、ルワジ川周辺の野生チンパンジーの分布調査

加納隆至・小川秀司<sup>1)</sup>

1997年にルクワ地方で発見された最も南に生息するチンパンジー個体群の分布域と密度を、聞き込み調査やネストの確認によって調べた。

##### (2) 西部タンザニア、ウガラ丘陵の乾燥疎開林における野生チンパンジーの生態研究

小川秀司<sup>1)</sup>

ウガラ丘陵においてチンパンジーのネストセンサスを行い、チンパンジーの分布と分布域内の各地域の生息密度を調査した。また、同地域におけるチンパンジーの生息地利用を、採食と泊り場利用の側面から分析した。

#### C) クロマンガベイとウォルフィモンキーの社会生態学的比較研究

Mbangi Mulavwa<sup>2)</sup>

コンゴ民主共和国マバリ森林のクロマンガベイとウォルフィモンキーの集団編成、生息地利用、遊動行動などの比較研究を行った。

#### D) 性淘汰、社会構造に対する要因としての霊長類のメスの繁殖戦略

大澤秀行・光永総子<sup>3)</sup>

霊長類における性淘汰、および社会構造に影響をおよぼすメスの性行動を研究している。これまで放飼群やグループケージ飼育ニホンザルについてその行動を調べてきた。本年はそのまとめを行

った。

#### E) 中央アフリカ乾燥サバンナおよび多雨林における霊長類の社会生態学的野外研究

大澤秀行

カメルーン北部のカマルエ国立公園におけるバタスザルとミドリザルの野外研究を1984年より継続して行っている。今年度は現地調査はこれまで調査を継続してきたグループについてセンサスを行い、次年度調査の基礎資料とした。熱帯林の調査は、ガボンのブチロアング自然保護区において、1996年度調査を行ったが、そのまとめとして、とくにこれまでの情報に乏しいシロエリマンガベイに関しては食痕情報より採食リストを作成した。

#### F) 真猿類の比較社会学的・生態学的研究

加納隆至・大澤秀行・小川秀司<sup>1)</sup>・

田代靖子<sup>4)</sup>・船越美穂<sup>4)</sup>・下岡ゆき子<sup>4)</sup>

真猿類の生態・社会進化を明らかにするため野外研究を行っている。今年度は狭鼻猿類のうち、ニホンザルについては、金華山(採食生態)、高崎山(個体群動態)、嵐山(老齢メスの社会性)、松本盆地(野生群の保全生態学)において調査を行い、チベットモンキーについては行動分析のまとめを行った。広鼻猿類のうち、ケナガクモザルについては南米コロンビア、マカレナ地域(離合集散性)において調査を行った。

#### G) インドネシア・東カリマンタンでの野生オランウータンの生態学的調査

鈴木 晃

今年度は、インドネシア・東カリマンタンにおいてオランウータンの分布調査、および森林火災の現状とオランウータンの被害状況の調査を行った。クタイ国立公園では、野生オランウータンの生態学的調査を継続しており、研究フィールドの基地を維持するとともに、現地でのオランウータンの保護活動を展開中である。

#### H) その他の哺乳類の社会行動研究

加納隆至・大澤秀行・小林 隆<sup>5)</sup>

半野生馬(宮崎県都井岬)について社会行動の調査を行い(小林)、霊長類とは異なるタイプの社会

についても動物社会学的研究を行っている。

## 〈研究業績〉

### 論文

#### —英文—

- 1) Kano, T. (1997) Leaf-dropping sexual display exhibited by a male bonobo at Wamba. *Pan Africa News* 4(1): 3-4.
- 2) Matsumura, S. & Kobayashi, T. (1998) A game model for dominance relations among group-living animals. *Behav. Ecol. Sociobiol.* 42: 77-84.
- 3) Ogawa, H. (1998) Adoption and social interactions among a mother and twin *Macaca fuscata*. *Folia Primatologica* 69 (2): 100-105.

#### —和文—

- 1) 小川秀司 (1997) 霊長類における同種間での他者理解の進化(Intraspecies theory of mind in primates: The evolution of social intelligence). *心理学評論* 40 (1): 22-38.

### 報告・その他

#### —英文—

- 1) Kano, T. (1997) Comment to 'Hadza women's time allocation, offspring provisioning, and the evolution of long postmenopausal life spans' by Hawkes, K., O'Connell, and NG. Blurton Jones. *Current Anthropology* 38(4): 568.
- 2) Kano, T. (1997) The bonobos' peaceable kingdom. In: Russell L. Ciochon & Richard A. Nisbett (eds.). *The Primate Anthology: Essays on Behavior, Ecology, and Conservation from Natural History*, Prentice Hall, Upper Saddle River, pp. 66-73.
- 3) Ogawa, H., Kanamori, M., & Mukeni, S. H. (1997) The discovery of chimpanzees in the Lwazi River area, Tanzania: a new southern distribution limit. *Pan Africa News* 4 (1): 1-3.
- 4) Ohsawa, H. & Hayes, V. (1997) Etude ecologique et comportementale des cercocébes à collier blanc (*Cercocebes torquatus*) de la

Reserve National de la Petite Loango et le Brigade de la Sette Cama (Dec. 1996 - Jan. 1997). Report de MIN. EF-PT-ENVIR, Gabon à 1997, MIN. EF-PT-ENVIR, Lebrville, pp. 11-18.

- 5) Suzuki, A. (1997) Intermediate Report on the Conservation Orangutans and its Distribution in East Kalimantan INDONESIA. Yayasan PAL, Bandung, p. 13.
- 6) Suzuki, A. et al. (1997) Intermediate Report on KELAI 2 Hydroelectric Power Project. Environment A. YAYASAN PAL, Bandung, p. 61.
- 7) Suzuki, A. et al. (1998) Final Report on KELAI 2 Hydroelectric Power Project. Environment A. p. 21.
- 8) Suzuki, A. (1998) Feasibility study on KELAI 2 Hydroelectric Power Project, Environment A. INTERIM Report, NEW Jec Inc. OSAKA, JAPAN, p. 30.

#### —和文—

- 1) 小川秀司 (1997) チンパンジーの乾燥疎開林への適応戦略: 採食と泊り場利用. 中山科学振興財団活動報告書1996, pp. 148-164.
- 2) 大澤秀行 (1997) フィールドワーカーを悩ませるムシ百態—海外調査こぼれ話(6). *遺伝* 51(9): 68-72.
- 3) 鈴木晃 (1998) ケライ2水力発電開発計画調査インテリムレポート. 環境 A、ニュージェック(大阪) 3, p. 29.

### 学会発表等

#### —英文—

- 1) Ogawa, H. & Idani, G. (1998) Habitat use of chimpanzees in the savanna woodland. Inuyama Symposium "Recent trends in Primate Socioecology" (Jan. 1998, Inuyama). Abstracts p. 27.

#### —和文—

- 1) 小川秀司 (1997) タンザニアにおけるチンパンジーの生息地と植生. 第13回日本霊長類学会

---

1) 教務職員 2) COE外国人研究員 3) 科研費研究協力者 4) 大学院生 5) 研修員

大会(1997年7月, 北海道). 霊長類研究 13 (3): 282.

2) 小川秀司・高橋弘之(1997) チベットモンキーの泊り場におけるサル団子形成の3者関係. 日本動物行動学会第16回大会(1997年11月, 京都).

3) 小川秀司(1997) 霊長類ではどんな社会のどんな雄が子育てを手伝うか? 日本動物行動学会第16回大会(1997年11月, 京都).

## 行動神経研究部門

### 思考言語分野

松沢哲郎・友永雅己・田中正之<sup>1)</sup>

#### 〈研究概要〉

A) チンパンジーの認知・言語機能の比較認知科学的研究

松沢哲郎・友永雅己・田中正之・  
佐藤 明<sup>2)</sup>・南雲純治<sup>3)</sup>

チンパンジーとヒトを対象に、認知・言語機能の比較研究を継続しておこなった。主として1個体のテスト場面で、色の認識、数の認識とくにゼロの概念(オックスフォード大学・ドラ・ピロとの共同研究)、記憶の減衰、図形パターンや表情の認知、刺激等価性、コンピュータ補助のなぞり描き・迷路課題(ノースフロリダ大学・イバー・イバーセンとの共同研究)、匂いと味を手がかりとした弁別学習(北海道大・上野吉一との共同研究)、運動する刺激の輪郭の知覚(京都大・藤田和生との共同研究)、などについて実験的分析をおこなった。

B) 対面ないし複数個体場面におけるチンパンジーの知性

松沢哲郎

プレイルームでチンパンジーと実験者が対面する場面において、石器や釣り棒などの道具使用、物を操作する動作の模倣(京都大・明和政子との共同研究)、粘土遊び(日本女子大・中川織江との共同研究)について研究した。また、チンパンジー2個体の同時レバー押し場面における行動を研究した(京都大・金沢創との共同研究)。

C) 社会的場面におけるチンパンジーの知性

平田 聡<sup>2)</sup>・鈴木修司<sup>4)</sup>・前田典彦<sup>5)</sup>・松沢哲郎  
屋外放飼場ならびに屋内居室を利用して2個体のチンパンジーがペアとなる場面を設定し、ビデオによって記録された2個体の駆け引きをもとに、チンパンジーにおける他個体のもつ知識の理解について実験的研究をおこなった。

D) 野生チンパンジーの道具使用と文化的変異

松沢哲郎・平田 聡<sup>2)</sup>

西アフリカのボツソウのチンパンジーの行動と生態を冬の時期に調査し、ビデオ記録の分析をおこなった(京都大・明和政子との共同研究)。

E) 飼育霊長類の環境エンリッチメント

松沢哲郎・熊崎清則<sup>5)</sup>・前田典彦<sup>5)</sup>・

勝田ちひろ<sup>5)</sup>・落合知美<sup>6)</sup>

飼育霊長類の環境エンリッチメントにかんする研究をおこなった。一環としての植樹プログラムを日本モンキーセンターで昨年に続き実施した。運動場における3次元構造物の利用頻度の調査をおこなった。環境エンリッチメントの取り組みについて、イギリス・オランダ・米国などで資料収集するとともに、国際エンリッチメント会議で報告した。上記の一部は共同研究(東京農工大・森村成樹)である。

F) チンパンジーの人工授精とホルモンの動態

松沢哲郎・松林清明<sup>7)</sup>・熊崎清則<sup>5)</sup>・

前田典彦<sup>5)</sup>・藤田志歩<sup>2)</sup>

チンパンジー1個体(女性、21歳)を対象に、尿中のホルモンの動態を測定した。人工授精をおこなって妊娠に到り、妊娠期のホルモンの動態についても測定を継続している。また、ホルモン動態と認知的パフォーマンスの変動との相関を調べた。

---

1) 1997年10月1日付採用 2) 大学院生 3) 認知学習分野技官 4) 研修員(1997年4月1日~1998年2月28日)およびCOE非常勤研究員(1998年3月1日~1998年3月31日) 5) サル類保健飼育管理施設技官 6) 特別研究学生 7) サル類保健飼育管理施設助教授